



環境リスクPress

2023年3月発行 / VOL.41

アスベスト関連ニュース

厚労省 石綿則の改正省令公布 工作物調査に要件(2023/2)

厚労省は、2026年1月1日から施行される、石綿障害予防規則の一部を改正する省令を1月11日に公布した。事業者に対し、工作物に関する事前調査で、石綿などの使用のおそれが高い工作物の解体などの作業・塗料その他の石綿などの使用のおそれのある材料の除去などの作業について、適切に調査を実施するために必要な知識を有する者として厚労大臣が定めるものに行わせることを義務付けている。事前調査を行う者の資格要件を設ける対象は特定工作物(石綿障害予防規則第4条の2第1項第3号の規定に基づき厚生労働大臣が定める物に掲げる工作物)の解体などの作業。特定工作物以外の工作物の解体等の作業のうち、塗料その他の石綿等が使用されているおそれがある材料の除去等の作業となる。

広島県府中市 旧環境センターで基準超す有害物質撤去(2023/01)

広島県府中市は1月25日、し尿や浄化槽汚泥などを処理する旧環境センター(同市中須町)の解体工事に伴う環境調査で、焼却炉内で調査した4検体のうち1検体から基準値を上回るカドミウムを検出、建物内では10検体のうち5検体でアスベストが基準値を超えた。屋外の敷地内では4検体のうち2検体で基準値を上回るヒ素を確認したと発表。井戸水などに影響はなく、解体に合わせて撤去する。

三重県 リサイクル業者がPCB含む変圧器紛失(2023/02)

三重県は2月8日、伊賀市西之澤のリサイクル業者が有害物質のポリ塩化ビフェニール(PCB)が含まれた変圧器2台を紛失したと発表。1月6日に業者から「保管していたPCB廃棄物が見当たらない」と報告があり、判明した。県の聴き取りに対し、業者は「2021年9月ごろに事業所内の片づけを行った際に作業員が他の鉄くずと合わせて回収業者に排出してしまった可能性が考えられる」と説明しているという。同事務所は業者に対し、引き続き所在を調査するよう指導している。

元造船作業員の遺族“アスベスト吸引で死亡”国に賠償求め提訴(2023/2)

北海道にて、造船従事していた元作業員男性が肺の病気になって死亡したのは作業中にアスベストを吸い込んだ為として、遺族が国に賠償を求める訴えを起こした。亡くなった男性は昭和52年から10年余りに渡って造船に従事しており、原告の妻は「船内の密閉された空間でアスベストを吸込む危険があったにもかかわらず国は防止策を怠った」として1070万円余りの賠償を国に求めている。アスベスト被害を巡っては、建設現場の元作業員たちの集団訴訟で一昨年、最高裁判所が国などの賠償責任を認め、その後、国は給付金制度を設けたが、造船に従事した元作業員は対象となっていない。10日は大阪地裁でも造船元作業員や遺族併せて10人が同じ訴えを起こしている。

福島県 複合施設にて産廃を発見、土ごと処分へ(2023/02)

スーパーを展開する、いちい(福島市)が桑折町の福島蚕糸跡地に整備を計画するスーパーとアウトドアの複合施設について、跡地から産業廃棄物が見つかったことにより、開業が今春予定から来春に遅れる見通しとなった。跡地を所有する町やいちいによると、昨年8月に土中からコンクリートや鉄パイプ等の産業廃棄物を発見。深さ約30cmに埋められていたという。町は県やいちいに対応を協議、アスベストを含む周辺の土ごと除去。約千tの処分を進めている。廃棄物は2001年に閉鎖した製糸工場の操業前のものと推測される。

損傷した空母を海に沈め処分 環境汚染に非難(2023/02)

ブラジル海軍は3日、損傷し領海を漂流していた退役空母「サンパウロ」を同国の沖合350Km、水深5千mの海底に沈めて処分したが、空母の有害物質が海を汚染するとして環境団体等から非難の声が出ている。1960年代にフランス海軍が使用のものを2000年にブラジルが購入。同国は21年にトルコの造船会社に解体発注したが、空母がアスベストを含んでいた為にトルコ当局が昨年8月入港を拒否。座礁の危険からブラジルの接岸も不許可、約半年間ブラジル沖をえい航されて漂っていたが、沈没は避けられないと判断。ブラジル連邦検察庁が、環境汚染を防ぐ為に沈没不許可を裁判所に求めたが、高等裁判所は3日、航行継続はえい航船乗組員の命を危険に曝すと要請を退けた。

過去の環境リスクPressはこちらから [環境リスク.COM](https://www.kankyorisk.com) <https://www.kankyorisk.com>

【発行】 アスベックス株式会社

〒194-0023 東京都町田市旭町2-7-8

[TEL]042-726-0744

[FAX]042-726-0726